

Subhūtipālita 著 〈*Bhūtaḍāmarabhaṭṭārakasādhana*〉 所説の灌頂儀礼について

名 取 玄 喜

1. はじめに

〈*Bhūtaḍāmarabhaṭṭārakasādhana*〉(=〈BDBS〉)は *Bhūtaḍāmaratantra* 所説の曼荼羅の観想法と、曼荼羅を用いた灌頂儀礼の実践方法を説く儀軌である。著者の Subhūtipālita については伝記資料が報告されていないため詳細不明だが、Bu ston rin chen grub (1290–1364) の *rnal 'byor rgyud kyi rgya mtshor 'jug pa'i gru gzings* では瑜伽タントラの学匠 Ānandagarbha (9世紀頃)の師あるいは弟子(兄弟弟子含む)として言及されており¹⁾、また *rdo rje 'byung ba'i brgyud pa* では *Sarvatathāgatattvasaṃgraha* (=STTS) 金剛界品に基づく曼荼羅儀軌 *Sarvavajrodayā* (=SVU) を著者 Ānandagarbha の2代後に相承したとされている²⁾。実際に〈BDBS〉と SVU の灌頂儀礼を比較すると、その次第構成はおおむね一致しており、類似・平行する文言が散見されることから、少なくとも灌頂儀礼に関して両者がある程度共通の背景知識を有していたことが窺われる。以上のことから〈BDBS〉は SVU と並び瑜伽タントラ階梯の灌頂儀礼を説く数少ない一次資料と目されるが、従来の研究では取り上げられていない。そこで本稿では〈BDBS〉の資料と灌頂儀礼の概要を紹介するとともに、SVU との比較を通じて灌頂儀礼の特徴をいくつか指摘したい。

2. 〈BDBS〉の文献資料

〈BDBS〉の資料には Rāhula Sāṅkṛtyāyana がゴル寺で撮影した全 21 葉の梵文写本³⁾と蔵訳⁴⁾がある。梵文写本は *Bhūtaḍāmarabhaṭṭārakasādhana* (=BDBS, 8葉)と *Bhūtaḍāmaramaṇḍalopayika* (=BDMU, 13葉)という二つのテキストで構成されている。前者は曼荼羅の観想法の規定であり、本文中で前行儀軌 (*pūrvasevāvidhi*) と呼ばれている。後者はその観想法を修した阿闍梨が曼荼羅を造壇して弟子に灌頂を授けるための灌頂次第であり、本稿ではこの BDMU を扱う。なお BDMU は「以上 BDBS 終わる」と結ばれているため、BDBS は前行儀軌の名称であると同

時に二つのテキストで構成される一連の儀軌全体の名称とも考えられる⁵⁾。蔵訳は後半の BḌMU にのみ対応し梵本と比べると細部に相違が見られるが、未だその比較検討に及んでいないため本稿では梵本のみ取り上げる。

3. BḌMU の概要

BḌMU 全体を通じた基本的性格として、SVU と同じく STTS や *Sarvadurgati-pariśodhanatantra* (=SDPT) 等の瑜伽タントラを随所に引用しながら本文を構成するという点が挙げられる。また灌頂儀礼の構成は、順序が異なる箇所や相互に対応のない次第等が若干存在するものの、SVU の次第とおおむね一致するといつてよい。以下 BḌMU の構成とそれに対応する SVU の次第(下記表参照)および各項目の概要を確認する⁶⁾。

BḌMU の構成(章題) [ロケーション]	対応する SVU の次第
1. 地の浄化の儀軌 (bhūmiśodhanavidhiḥ) [1v1–1v3]	§ 89 擇地–§ 90 淨地
2. 地の獲得 (bhūmiparigrahaḥ) [1v3–1v5]	
3. 瓶の準備の儀軌 (kalaśādhivāsanavidhiḥ) [1v5–3r1]	§ 92 自身引導–§ 100 曼荼羅供
4. バリ儀軌 (balividhiḥ) [3r1–3r6]	§ 142 諸天供
5. 弟子の準備 [3r6–4r4]	§ 101 弟子祈願–§ 108 入壇許可
6. 尊格の準備 [4r4–4r6]	対応なし
7. 曼荼羅の線描 [4r6–5r6]	§ 109 墨打ち法–§ 121 抜概
8. 曼荼羅の彩色 [5r6–6r1]	§ 122 染色印言–§ 124 諸尊布置
9. 曼荼羅の荘嚴 [6r1–6r6]	§ 134 金剛薩埵等召入–§ 136 置瓶
10. 弟子引入の準備 [6v1–8r2]	§ 137 諸軌則–§ 148 十四三昧耶
11. 弟子引入次第 [8r2–9r4]	§ 149 曼荼羅引入–§ 157 見曼荼羅
12. 瓶灌頂 [9r4–9v4]	§ 158 七種灌頂–§ 160 中次第
13. 後方便 [9v4–]	§ 168 供養・金剛禁戒–§ 170 護摩

1は曼荼羅を作成する土地を浄化する方法、2は『大日経』の所謂警発地神偈⁷⁾と華等で地神を供養する方法が説かれる。3は諸仏への勧請、金剛眼・金剛輪印による観想、金剛概、灌頂用の瓶の準備等である。4はシャクラ等の諸天を招請してバリを捧げる方法で、その内容は *Bhūtaḍāmaratantra* 所説の発遣儀軌に基づいている。5は弟子を灌頂の受者として認めるための懺悔や齒木授与等の諸儀礼、6は曼荼羅の諸尊に灌頂の許可を得るための次第で、灌頂儀礼を説く他の文献では各々 *śiṣyādhivāśana* と *devatādhivāśana* と呼ばれる。7は曼荼羅の区画線

を引く紐の加持や線引きの手順, 8は曼荼羅を彩色する顔料の加持, 彩色の手順, 観想による尊各の布置, 9は観想による曼荼羅の開門, 瓶の配置方法である。10は弟子を曼荼羅に引入する前段階の準備の次第で, 律儀の受持, 自加持, 尊格の招請と供養, 弟子の啓請と阿闍梨の応答等からなる。11は弟子の引入から覆面を解いて曼荼羅を見るまでの次第で, 誓誡授与, 遍入, 投華得仏等を含む。12は水・印・宝冠・繪綵・金剛杵・名・金剛主名の7種の灌頂に関する規定で, 具体的な説明は水灌頂に限られ残りの6種は名称のみ挙げられる。13は金剛禁戒授与, 金篋・明鏡による加持等『大日経』由来の儀礼, 蘇息等が続き, 最後に護摩の規定が述べられる。

4. BDMU と SVU の相違点の例

BDMU と SVU は多くの共通点をもつが, 本文を比較すると各々に独自の引用や同じ次第でも内容が異なる等の相違点も多く見られる。以下 BDMU の特徴の一端として, SVU とは相違する一方, 灌頂儀礼を説く他の文献に共通の規定が見られる例をいくつか指摘しておく。まず2. 地の獲得では上述のように警発地神偈が唱えられるが, 当該の偈は SVU にはない。なお同様の規定は Dīpaṅkarabhadra (9世紀前半頃) の *Guhyasamājamaṇḍalavidhi* (= GSMV) ほか複数の曼荼羅儀軌に見られる⁸⁾。3. 瓶の準備の儀軌のうち勸請の箇所では, 相当する SVU §93 勸請は三三昧の修習に言及するが, BDMU は SVU のように前行儀軌を三三昧によって区分せず, 三三昧への言及がない。5. 弟子の準備の最後で入壇許可を告げる6偈が説かれるが, 相当する SVU §108 入壇許可は偈そのものを欠く。なお一部『大日経』に由来する当該の偈には複数の系統があることが桜井氏によって指摘されており(桜井1996, 261-263), BDMU の所説は *Kriyāsamgrahapañjikā* のそれと一致している⁹⁾。6. 尊格の準備では SDPT 所引の4偈¹⁰⁾ が説かれるが, SVU は次第そのものを欠く。10. 弟子引入の準備の最後で, 相当する SVU §148 十四三昧耶では SDPT と同一の十四波羅夷罪¹¹⁾ が説かれるが, BDMU は十四波羅夷罪やそれに類する内容を欠く。13. 後方便の蘇息では *Śrīparamādya* 所引の約18偈¹²⁾ が説かれるが, SVU はこれと異なる短い文章を挙げた後「他の蘇息は *Śrīparamādya* より知るべきである」として記述を省略している。なお GSMV も同偈を蘇息として引用していることが桜井氏によって指摘されているが(桜井1996, 166-169), BDMU の方がより原文に近く, また *Guhyatantra* とほぼ同一の偈¹³⁾ を加える点に特徴がある。

- 1) CWB Pt. 11, Da 61r5; 63v2; 84v2. 2) CWB Pt. 16, Ma 8r7. 3) ゲッティンゲン大学図書館蔵 Cod Ms Sanscr. Rah. Xc 14/50 no. 50; 51. 4) *dpal 'byung po 'dul byed kyi dkyil 'khor kyi cho ga shes bya ba*, D 2677=2905. 5) ただし BDBM の奥書に BDBM も含めて前行儀軌としていると解釈できる一文があるため、本文献のタイトルについては検討の余地が残る。本稿では便宜的に儀軌全体を〈BDBS〉、前行儀軌を BDBS と表記している。6) 1-4 の項目名は梵本に基づく。それ以降は章題がないため桜井 1996 を参考として筆者が便宜的に付けた。また対応する SVU の§番号と名称は高橋 1988 に基づく。7) 『大毘盧遮那成仏神変加持経』T vol. 18, 4c7-10. 8) Mori (2009, 533) 参照。9) *Kriyāsaṃgrahapañjikā* (桜井 (1996, 493-528) 「Kriyāsaṃgraha 灌頂次第関連箇所梵文校訂テキスト」) pp. 499.29-500.10. 10) SDPT p. 236.15-26. 11) SDPT p. 236.5-21. 12) *Śrīparamādyamantrakalpa-khaṇḍanāma*, D 488, Ta 230r5-231r1. 13) *Sarvamaṇḍalasāmānyavidhīnām guhyatantra*, D 806, Wa 163r5-163v2.

〈一次文献と略号〉

BDBS: *Bhūtaḍāmarabhaṭṭārakasādhana*. Cod Ms Sanscr. Rah. Xc 14/50 no. 50. **BDMU:** *Bhūtaḍāmaramaṇḍalopayika*. Cod Ms Sanscr. Rah. Xc 14/50 no. 51. **CWB:** *The Collected Works of Bu-ston*. Ed. Lokesh Chandra. 28 vols. New Delhi: International Academy of Indian Culture, 1965-1971. **GSMV:** “Śrīguhyasamājamaṇḍalavidhi of Ācārya Dīpaṅkarabhadra.” *Dhīh: Journal of Rare Buddhist Texts Research Unit* 42: 109-154. Sarnath: Central Institute of Higher Tibetan Studies, 2006. **SDPT:** *The Sarvadurgatipariśodhanatantra: Elimination of All Evil Destinies*. Ed. Tadeusz Skorupski. Delhi: Motilal Banarasidass, 1983. **STTS:** *Sarvatathāgatattvasaṃgraha*. 堀内寛仁編著『梵藏漢対照初会金剛頂経の研究梵本校訂篇(上)——金剛界品・降三世品——』密教文化研究所, 1983. **SVU:** *Sarvavajrodāyā*. See 密教聖典研究会 1987; 高橋尚夫 1988.

〈二次文献〉

Mori Masahide. 2009. *Vajrāvalī of Abhayākara-gupta: Edition of Sanskrit and Tibetan Versions*. 2 vols. Buddhica Britannica Series Continua XI. Tring: The Institute of Buddhist Studies. 桜井宗信 1996 『インド密教儀礼研究——後期インド密教の灌頂次第——』法蔵館。高橋尚夫 1988 「金剛界大曼荼羅儀軌一切金剛出現——余滴——」『豊山学報』33: 1-58. 密教聖典研究会 1987 「Vajradhātumahāmaṇḍalopāyika-Sarvavajrodāyā——梵文テキストと和訳(II) 完——」『大正大学総合佛教研究所年報』9: 13-85.

〈キーワード〉 Subhūtipālita, *Bhūtaḍāmarabhaṭṭārakasādhana*, *Bhūtaḍāmaramaṇḍalopayika*, Ānandagarbha, *Sarvavajrodāyā*, 灌頂

(真言宗豊山派総合研究院宗学研究所研究員)